

超高精細映像を用いた遠隔診断セミナー 開催報告

- 開催日時： 2012年 7月 27日(金) 14:00～17:00
- 開催場所： 京都府立医科大学 基礎医学学舎 第一講義室
- プログラム：

講演1 「4K超高精細映像とマルチチャンネル映像伝送技術(オールソフトウェアコーデック)」

NICT ユニバーサルコミュニケーション研究所

専門推進員 荒川 佳樹

講演2 「IT時代における画像診断の現状」

京都府立医科大学 医療情報通信学講座

助教 西田 香織

講演3 「4K超高精細映像伝送技術を用いた遠隔放射線診療:初期実験結果」

京都府立医科大学 医療情報通信学講座

助教 三浦 寛司

デモンストレーション 「4K超高精細映像伝送を用いた遠隔画像カンファレンス」

講演4 「光パケット・光パス統合ネットワーク」

NICT 光ネットワーク研究所

ネットワークアーキテクチャ研究室 室長 原井 洋明

ディスカッションと質疑

- 出席者数： 63名
- アンケート回収数： 33名

○概要

(独)情報通信研究機構(NICT)と京都府立医科大学は共同で、4K超高精細映像伝送を用いた放射線診断領域における遠隔医療に関する実証実験を実施しました。遠隔画像カンファレンス等を行った結果、4K映像の遠隔医療分野における有効性が実証されました。そこで、当協議会映像コミュニケーションWGでは、この実験の報告会として、講演会およびデモンストレーションを実施しました。なお、4K映像とは、現行ハイビジョンの4倍(水平解像度約4,000画素)の解像度を持つ超高精細映像のことです。

講演1では、NICTにおける4K映像技術とその伝送技術に関する研究開発の内容を紹介しました。講演2では、放射線科における画像診断の歴史と現状を紹介しました。講演3では、今回、NICTと京都府立医科大学が共同で実施した「4K超高精細映像伝送を用いた放射線診断領域における遠隔医療に関する実証実験」の概要と実験結果を報告しました。デモンストレーションでは、会場に双方向4K映像伝送システムを構築し、遠隔画像カンファレンスの様子を実演しました。講演4では、NICTが取り組んでいる新世代ネットワーク技術「光パケット・光パス統合ネットワーク技術」を紹介しました。伝送遅延およびパケットロス的大幅に低減するオール光ネットワーク技術に関して解説をしました。最後に、ディスカッションと質疑を行いました。来場者の感想として、専門医とのカンファレンスが画像診断において重要で、そのために高精細映像や高速ネットワークの技術がおおいに役立つことが実感できた、情報通信技術の進展が医療のあり方等にも大きな影響を及ぼしつつあることがわかった、などがありました。



デモンストレーション「4K超高精細映像伝送を用いた遠隔画像カンファレンス」の様子